

第13回環境教育・環境学習ネットワーク会議 会議録

日 時：平成26年3月7日（金） 15:00～17:00

場 所：消防局庁舎第2会議室

出席委員：高橋座長、鈴木副座長、稲構成員、宇佐美構成員、内船構成員、太田構成員、大森構成員、桐谷構成員、高橋直人構成員、高橋正明構成員、奈良谷構成員、野崎構成員（12名）

事務局：環境政策部環境企画課（小澤課長、笠原主査、高橋、山中）
環境政策部自然環境担当（大森課長、岡田主任）

傍聴：なし

◆ 会議の流れ

1 開会

2 報告

（1）相互交流講座（2月5日開催）の実施について

3 議題

（1）平成26年度人材育成講座について

（2）平成26年度教員向け環境学習講座について

4 その他

（1）事務連絡

◆ 報告の要旨

（1）相互交流講座（2月5日開催）の実施について

【事務局から説明】

2月5日開催の環境活動者を対象とした「相互交流を生かした人材育成講座」の実施報告を行った。今年度は環境教育指導者を対象とし、「保育園におけるエコ育の取り組み」と題して講座を開催した。武山保育園の協力のもと、保育士によるエコ育集会の見学や、幼児の特性などの解説、意見交換を行った。

高橋座長

この研修会には、この会議から野崎さんと私が参加している。今日、欠席の小谷さんも講座の前半を見学した。野崎さん、感想があればお願いします。

野崎構成委員

前にも一度、逸見保育園を見学して、今回2回目となる。今回も非常にきめ細かい指導が環境というテーマの中で行われていて、むしろこちらの方が勉強させられた。保育園の

保育士さんたちが、大変丁寧に楽しく、非常にわかりやすくお話しをしたり、ダンスも含めて、子ども達が楽しんで学べる工夫をしていらっしゃると思えば改めて感じた。私もとても楽しんで、参加をさせていただいたと思っている。やはり保育園児はかわいらしく、こちらでもまた小学生とは違った意味で、楽しみながら、遊びながら活動ができるようになると思う。そのためにはもう少し経験を積んで勉強をし、自分も楽しめないと感じた次第。

高橋座長

私も全く同感なのだが、園長先生がお話も上手で勉強になったところがたくさんあった。皆さんに紹介したいのが、3ページの質疑応答Q7に「子ども達の意識が切れてしまったときの工夫はどうしますか」とあり、答えは「質問をしてみると子ども達は頑張っただけで答えるようにする。」とある。これは我々もそのとおりで気を付けているが、次の回答に「まったく関係のない話を突然はじめて意識をひいてから、元に戻す」とある。これは現場で経験のある人でないと言えないことなので、こんなところが今回の研修で大変参考になった。皆さんも都合がつけば、ぜひ研修会に参加していただきたいと思う。

◆議題1の要旨：平成26年度人材育成講座について

【事務局から説明】

平成26年度に実施する人材育成講座については、現在既に活動を行っている方向けのスキルアップの講座を年2回開催することを事務局案とし、それについて各構成員と意見を交わし、具体的な内容を検討する。議論においては、環境教育を提供される側として、また、自らの立場で講座へ協力できる事といった視点からの意見もお願いしたい。

高橋座長

皆さんのご意見を伺う前に、今の説明、お配りした資料の質問がございましたら、お願いします。

野崎構成員

今、ご説明していただいたことからすると、①案にしる、②案にしる、どちらも対象は市民活動団体となるか。今までは、小学校の先生や、市の職員が対象だったが、来年度は2回とも対象は市民活動団体、あるいは個人と受け取ってよいか。

笠原主査（事務局）

野崎構成員の仰られるとおりのこととなる。説明資料2ページ目の「実施するにあたっては自然環境活動団体交流会とのタイアップを図る」とある。対象を幅広くしても、なかなか人

が集まりにくいので、まずはこちらの交流会や、環境教育指導者に声をかけようと思っている。学校の先生向けは議題2のテーマを考えており、この人材育成講座には含まない。

高橋座長

その他、ございますか。

(質 問 な し)

高橋座長

それでは、各構成員のご意見をお伺いしたい。平成26年度、市民活動団体を対象とした、人材育成講座をテーマ二つに分けて2回構成の是非についてお伺いしたい。いかがでしょうか。①案は座学が中心で、②案は現場の見学で二つを組み合わせようというのですが、いかがですか。

鈴木構成員

自然環境活動団体交流会とのタイアップも図るとのことだが、①案、②案にそれぞれ該当する方、出席する方はどのような方か。

笠原主査（事務局）

①案、②案これは一つの講座と考えていただきたい。例えば、参加者が10人いれば、1回目、2回目、それぞれ募るのではなく、2回の連続した講座の開催として募集を考えている。1回目に参加した方は、自動的に2回目も参加というイメージである。

参加者だが、交流会だけに話をもっていくわけではなく、先程述べた環境教育指導者など、他の方にも案内をするつもりで考えている。また、ネットワーク会議の構成員の方にも、ご案内を行いたい。ただ、広く市民の方に公募をかけてしまうところまでは、現時点では考えていない。

平成26年度の方向性としては、資料にもあるとおり、あくまでも今活動されている方たちのスキルアップを目指している。環境に既に興味や関心があつて活動されている方を対象に実施する。そうでないと、参加者のレベルの差や感覚の差が出てきてしまう。そのような温度差を埋める場とする考えもあるが、今回は2日間の講座とさせていただきたい。

鈴木構成員

そうすると、自然環境活動団体の20団体に声を掛けて、募って参加いただくということでしょうか。活動交流会は例えばどのような方がいらっしゃるのか。

高橋座長

それについては、大森課長、よろしく申し上げます。

大森課長

自然環境担当課長の大森と申します。

この自然環境活動団体交流会は、ここにも書いてあるとおり、私どもの課が出来た平成 23 年度後半の平成 24 年 1 月に発足した。それまでも、長年やっている活動団体もあったが、横須賀市の行政として、そういった活動を把握していなかった。そこで自然環境に係る活動団体に「参加しませんか」というようなかたちのプロセスを経て、手を挙げていただいた方に参加していただいている。

具体的には、自然環境は大変広いので、全般的にやっているというよりも、例えば平作川をターゲットに活動をしているとか、昆虫研究会や植物や竹林など、自然環境の中の一つのパーツを対象にしている団体が多い。従って、皆さんのフィールドが重なる場面もあるが、単独に活動されている方が殆どと見受けられる。お互いこういう団体があるのは知っているが、何をしているかよくわからないなどの話を聞いていたので、そこでそういった情報交換をする場として設けている。実感としては、自分たちのフィールド以外の、社会的な活動と言うか、膨らました活動をやっている団体はそう多くはないと感じている。こういう機会の場で、例えば環境教育という視点の認識の共有や意識の共有ということにも非常にプラス効果があると考えている。

高橋座長

ありがとうございました。

これに関して、実際、環境教育をやるのは団体ではなく、団体に所属する個人となる。例えば、対象を団体にすると、1 人の方が第 1 回目に参加したけれども、他の人が次の会に参加するということがあり、団体としては参加したけれども、責任ある個人としての参加ではなくなってしまう。

したがって、教育できる人の育成ということでは、その団体に所属するリーダーとか団体が推薦する者という、個人を対象にする方が、環境教育という面からは、適切ではないかと思う。個人だけでも、一般市民の個人を対象にするのではなく、ここで言われている市民活動団体として活動されている団体に所属する個人という風にしたらいいかなと思うのだが。

笠原主査(事務局)

資料の表現では団体となっているが、今の座長の意見はもっともだと考える。募集の際にあまり誤解のないようなかたちで、団体にご案内したい。中には団体の中で、環境教育部門というところで、特にそちらに力を入れていらっしゃる方がいる団体もあるので、その辺は広く解釈できるような、また誤解のないように行いたいと思う。

高橋座長

では、よろしくお願ひいたします。

今、受講の対象者の話になったが、①の2回構成の是非と②の講座内容の是非を併せてやった方がいいと思うが、これに対してご意見がございましたらお願ひします。

高橋正明構成員

講座の目的ということで2ページ目の2行目に「講座は年2回を目標に開催する。①教育・学習の技術につながる研修と、②環境に関する知識を深める研修の2回構成とする。」と具体的な案が出ているが、私の感覚では、上の目的と下の案の内容がぴったりこない感じがする。ここのところを目標とするのならば、例えば①では先進的な現場を見学するというようなところに絞り込んで、先進的な事例の見学を行う。例えば先程、保育園の見学のときに非常にきめ細かくやっているという話が出て、それは今までの実績と園長先生の個人的なスキルによって、きめ細かい学習ができていないのではないかと考える。そうすると、そういった学習を狙って、どういったスキルを身につけるというような目標を明確にした講座内容を考えていくと、よりこの目標と実践が結びつく感じがした。②案の「企業における環境の取り組みの紹介と見学」は、上の目標の①と②のどちらに該当するのかなと、上手く理解できないので、その辺を詰める議論も必要という気がする。

高橋座長

いかがですか。

笠原主査(事務局)

まず、開催講座は2回ということで、先程と繰り返しになるが、講座の内容については、案①、②が必ずしも方向性の①、②とリンクするものではない。ちょうど①、②と同じ番号を使っているが、2回の講座全体の目的として、目標として2回の中で、技術研修と知識研修を交えたというところになっている。資料では①が①案、②が②案と読みとれてしまうところがあり申し訳ございません。①、②を踏まえた上での、①案、②案と読んでいただきたい。

高橋正明構成員

そうすると、具体的な内容については、そのようなことを踏まえて、かなり先進的な事例を紹介するというような考えという理解でよいか。

笠原主査(事務局)

先進的な事例の全てを、事務局で把握しているわけではない。ここの資料の目的にはな

いが、一つは参加者同士の交流ということも目的にしている。したがって、優れた先進事例をご紹介できれば当然そのようにしていきたいのだが、この時点の案では、先進事例ではなく、身近な横須賀で活動されている方が、地元でどういうことをされているのかという紹介を考えている。

高橋正明構成員

目的は相互で学ぶ場であるということか。

笠原主査(事務局)

来年度だけでこの事業が終わってしまう取り組みではなく、環境活動をされている団体も今年で終わってしまうということはないかと考える。したがって、まずはきっかけ作り、皆さんの交流と現状の情報交換をしていただきたい。

そして、今回は環境教育活動を主眼に置いているので、一例として、環境活動をされている団体の皆さんが夏休みに子どもたちを集めて何かを教えている、そういった事例を紹介していただきたい。それを聞いて、もしやっていない団体があれば、「面白いからやってみよう」、「自分たちにもできるかな」というきっかけや、逆にやっている団体が他の団体がどういうことを、どういうふうに行っているか、といったことを見ていただくことで、何か次に生かせる場になればというのが来年度①案で計画している事である。

当然、高橋構成員が仰られるような先進事例やお互いの勉強会、ワークショップなどを設けるというのもあるかと思うが、最初は学識経験者の方をお呼びしてお話をいただくと、また違った視点でお話がいただけるかなということで、今回①の案のポイントとしては意見交換、情報交換プラス、外の人からの講評をいただくことで、何か刺激になればと考えている。

高橋直人構成員

ワークショップにするとかなり時間を掛けなければならないが、②案の「つながりをつくる」はとても大切だと思う。交流会は平成24年度に発足したということで、まだまだ顔なじみにはなっていないと思う。発表が終わった後、10分でも15分でもいいのでお互い少人数で感想を言い合えるような場があると、もう少し顔が見える、近づける間柄になっていくのではないかと、そこも大切でないかと考える。

高橋座長

ありがとうございました。では、野崎構成員お願いします。

野崎構成員

同じような意見だが、②案の「市民活動団体と企業のつながりをつくる」というところが、

市民活動をしている身としては、今まであまり機会がなかったので、ここの部分は非常に魅力的と感じる。情報のやり取りだけではなく、どのような企業がどのような感じで、共同で動けるかといったことまで話し合えるような時間が取れると、市民活動団体としては非常に恵まれた機会になるのではないかと感じる。それから①だが、あくまでも環境活動団体の活動の紹介と交流があるのだろうが、一番の目的は環境教育に関してどういう活動をしていくか、そのスキルを学んだりする機会になると思うので、そのところをはっきり環境教育に役立つようなかたちでの報告会という、名目をはっきり謳った募集をしていた方がいかと思う。

高橋座長

ありがとうございました。テーマ①の環境教育を行われている場所についての特定はないが、②は企業との講座となっているので、企業を代表して大森さん、桐谷さんいかがですか。

大森構成員

企業側としても市民団体の皆さんと交流の場を図ることがあまりないので、こういった場を利用し交流をさせていただき、ご意見をいただいて企業側としてご協力させていただければと思う。

高橋座長

桐谷さん、何かございますか。

桐谷構成員

できるだけ、皆様のお役に立ちたいと思っている。企業は企業なりにささやかながら色々と環境活動をやっている。それが皆さんの生活環境に影響を与えている部分もあるし、こちらとしてもできるだけ良くしようという努力で取り組んでいる部分もあるので、そのところを理解していただくのにこういった場を使わせていただくと、相互にとって非常に有益になるのかなと思う。

高橋座長

ありがとうございました。この講座の一環で平成23年、24年は、鈴木さんの所属する東芝に協力いただいている。いかがですか。

鈴木構成員

企業の環境の取り組みというと、今殆どの電機会社で生物多様性の取り組みをやっている。私どもの会社では、三浦半島の小網代の森から「ハマカンゾウ」をビオトープに移し

て、育てている。東芝のコンセプトとしては、稀少植物を事業所内で増やして戻す取り組みを行っている。今まで数年間、小網代の森調整会議を月に一回開催し、保全活動をしてきた。ハマカンゾウが約 75 株に増えたので、5 月 18 日に返還式を予定している。7 月以降、一般開放されるので、行ってみるのはいかがか。27 ヘクタールのところなので、ぜひ見学会を計画してもよろしいかと思う。日産ではいかがか。

桐谷構成員

会社として環境の取り組みはあるが、ビオトープ等に行っていない。

鈴木構成員

今まで企業の取り組みは、化学物質や CO2 だったが、今は企業が社会貢献をしようというような動きになってきている。そんな事例を含めて小網代の森の活動を 1 案に入れていただけたらいいか考える。

高橋座長

ありがとうございました。今、企業の代表の方に話を伺ったことで、ここで議論する④の話が伺えた。今回の議題 1 のところで、もう少し詰めておくような話は事務局としてあるか。

野崎構成員

質問になるが、特に講座①案だが、環境教育と言ったときに、学童をある程度、重視した環境教育と考えているのか、またはエコツアーなど一般の市民を対象にしたもの、そこまで広げて環境教育に関する活動と考えているのか、そのところはどのように考えたらいいのか。

高橋座長

議題 1 としては人材養成だが、その養成された人材がどこで活動の場を設けるかという点の指摘になる。事務局からお願いします。

笠原主査(事務局)

環境教育というところでは広いのですが、逆に児童、生徒だけに特化してしまうと狭くなってしまうので、そういった面では、活動されている方が活動していない人達に何か環境に関心をもってもらうきっかけ作りというところが、一つの環境教育という視点で考えている。したがって、その参加者が、どうかたちになっているかまでは絞らずに、環境教育の活動をされている事例とか、エコツアーみたいなものも一般の方を含めたかたちでの取り組みというふうに抑えていきたいと考えている。そういう面ではあま

り絞り込まずに広いかたちでいければと思っている。

高橋座長

それでは議題1はよろしいでしょうか。

笠原主査(事務局)

②案については、東芝ライテックの鈴木さん、日産自動車の大森さん、桐谷さんのどちらかにご協力をいただきたいと考えている。どちらにお願いするかというのは、先程申し上げたとおり、一回で終わる企画ではないので、今後順番にご協力いただければと考えている。横須賀市で企業の皆さんがどういった取り組みをしているのか、知っていただくきっかけにもなると思う。今は自然環境の話だけに特化しているが、先日、東芝を拝見させていただいたときは工場内で色々な廃棄物の処理をこまめにやっているとか、企業の中の取り組みとして環境に対しての取り組みは思った以上に細かくやっている。そういったことを市民の方が知る機会にもなる。今後その点は調整させていただきたい。是非ともご協力をお願いしたい。

高橋座長

先程も出来ることはご協力というご発言があったので、よろしくお願いします。

では、議題2 平成26年度教員向け環境学習講座について、事務局からお願いします。

◆議題2の要旨 : 平成26年度教員向け環境学習講座について

【事務局から説明】

平成26年度の教員向け講座は、里山を会場とした自然観察会を事務局案として提案する。より多くの参加者を募るため、募集・申込については教育委員会と連携をしていきたい。講座の内容について、各構成員の立場から意見を交わし、具体的な実施としたい。

高橋座長

今の説明に対しご質問や確認事項がございましたらお願いします。

高橋直人構成員

学校の先生方に対する研修会ということで、先生がメインだと思うが、地域活動にあたって、例えば行政センターやコミュニティセンター、生涯学習センターなどの職員も一緒に参加させていただいて、先生と交流がもてれば、先生が地域で活動するときに、何かプラスになることがあるのではないかと思う。特に行政センターあたり、生涯学習センターもそうだが、地域の方と色々なつながりをもっているの、そういう方が参加することに

より、先生の活動に助言したり、必要な人を紹介したりしやすくなるのではないかという気がした。そういうことができたらいいのではないかと思う。

高橋座長

質問事項はありますでしょうか。特に先生方いかがですか。

(質 問 な し)

高橋座長

それでは、構成員から意見をお伺いする前に、テーマが田んぼの自然観察会で、しかも具体的に場所が「沢山池の里山」「野比の田んぼ」と具体的にあり、大森課長がお見えになっているので、是非ご紹介ください。

大森課長

自然環境担当課は、23年に里山の活用に関する活動を開始し、ここの2箇所を選定しました。身近な自然を市民の方に体験してもらう、場の提供と機会の提供のコアな部分にすることを目的にしている。当然、学校の活動に呼んでいただくことも期待している。

実際、今2つの場所が書いてありますが、野比の田んぼは難しいと思うので、具体的には沢山池の里山を提供したいと思っている。こちらは昭和40年代に西武鉄道が大半を取得し、部分的に現地はこの50年くらい全然手をつけていなかった。外から見ると大変緑が豊かな自然が豊かなところである。そばに行ってみると、藪ばかりの場所でしたが、ここ1、2年で活動団体の方と協力して、自然環境活動、自然観察会などができる状態にまでなってきた。一部田んぼを今年度1年掛けて、再生する作業をし、試しに苗を植えてみたところ70キロくらい採れて収穫祭を実施した。今年度、里山林の手入れの講習も行った。ご承知のとおり、横須賀には林業がないので、技術がない。その技術の指導を森林インストラクターの方をお願いして、一般の方を公募して7、8名、皆さん仕事をもっている方でしたが修了した。そこでの活動を定着していくため、来年度以降、第2次の講習のお手伝いをしながら、そこでの場の活動を少しずつ増やしていこうと活動している。現在そういった活動をしている場所である。

場所のイメージをお伝えするのは難しいので見ていただくのが一番だが、そういう主旨で関わってやっている場所になる。7千㎡くらいについては市民緑地という位置づけをし、西武鉄道から無償で供与していただいて、市が管理をしている。残りの、人が入れない部分は、西武鉄道と管理協定をさせていただいて市が管理をしている。今後、比較的活動としては、やりやすいところだと思っている。近くの小学校にも関わっていただきたく、営業セールスもしている。

高橋座長

ありがとうございました。田んぼと言うと、小学校で結構、田植えや稲刈りを体験学習の場として捉えている。一方、この講座案で言っているのは、自然観察であり、田んぼがあると色々な生きものがそこにくるといふ自然観察に目が向くように、どういう視点で捉えたらいいかということをもまず座学で、その後、現地でというのを今回のテーマとして取り上げている。内船先生いかがですか。

内船構成員

とても楽しそうな企画だと思う。田んぼは人間活動の部分と自然の狭間にある環境だと思っている。そのグラデーションの中に様々な生物が住む場所ができてくるという意味では、生物多様性と考えるうえで非常にいい場所なのではないか。また自然観察会では個々の自然についていろいろ事象をあげたり、水辺のものを強調するなどあるかもしれないが、総合博物館に所属する視点から、水田自体の自然だけの要素ではなく、水田は人間の活動に関わっている場所であつたりするので、自然観察に加えつつ、文化的な側面などもその中で少し触れることができたらいいのではないかと思う。例えば、水田にまつわる様々な名称、「あぜ道」とかそういった部分は実際そこに行ってみないと分からない。ここに参加している方は小さい頃、「あぜ道」で遊んでいて怒られた経験があるのではないかと思うが、なぜ「あぜ道」で遊んでいると怒られたのか、田んぼを作るうえで非常に重要な部分で、実際に見ると感じられるのではないかと思い、色々な要素をここに盛り込めることができそうな、可能性のあることだと思う。

高橋座長

これは対象が学校の先生ですが、稲先生お願いします。

稲構成員

稲作については5年生の社会科で農業の一部としてやっけていて、自然観察と言うよりは、稲作ということで学ぶ。そこで出てくるので、各学校の5年生ではバケツで稲を育てたり、鶴久保小学校では、学校に田んぼを作って活動をした。社会科の一部としてやるので、そこで終わってしまうことが多い。もう少し広げる場合では、総合的な学習の中で稲作から、更に文化的な部分を含めて広げて学習を進めていく学校もあるかと思うが、実際にはなかなか田んぼに行つて、活動する場がない。

里山を作つていただいているということで、近隣の学校には是非活用していただきたいと思うし、市内の先生方にはこの里山を通して、実際、田んぼに触れたことのない先生方がたくさんいるので、先生方に体験の場として活用していきたいと思っている。

高橋座長

ありがとうございました。宇佐美先生いかがですか。

宇佐美構成員

沢山池を活かして、先生方に自然観察の説明をもっといただくのはいいいことだと思う。立地からすると何度も何度も足を運ぶのは難しいので、それを多くの学校で取り組んでいる米作りと結びつけた視点が素晴らしいと感じた。実際参加された先生方が、子ども達を連れて沢山池に行くということは、遠いのでなかなか期待できないと思う。そこで、ここに盛り込んでいただきたいことは、先生方が学校に戻って、例えば、小さな田んぼやバケツ稲を元に授業をするときに、ここで学んだことをどう活かすか、そのアイデアを入れていただくといいと思う。以前、バケツ稲をもう少し大きくし、発泡スチロールのトレイを使って、そこで一緒にメダカを飼うアイデアを見たことがあるが、何かそのようなここで学んだことをどう学校で活かすかというところまで、組み込んでいただくといいと考える

高橋座長

太田先生お願いします。

太田構成員

社会科の中で田んぼを扱っているが、例えば今回、この時期に先生方に田んぼの研修があるよと言って参加をする。イメージとして、風に揺られている稲に穂が出ていて、もしかしたら中干しをしていたり、ヒガンバナの跡があるなど昔ながらの風景を感じとってきたときに、これを子ども達に見せたい、と思っても、来年になってしまう可能性が高い。その先生が来年、5年生の社会科を持たなかった場合には誰が行くのか、ということになってしまう。

つまり、田んぼ中心にしてしまうと、先生方の「どう授業で活かしていこうか」という視点が定まらないので、自然観察会をメインにさせていただいた方が、先生方は授業で「こんなふうを活かしていこうか、ああいうふうを活かしていこうか」と、学んだことを活かせるのではないかと感じた。

しかし、若い先生が増えてきている中で、田んぼを知らない先生も多いのではないかとと思う。バケツ稲には詳しいかもしれないが、壮大な山とか里にイメージを持つことだけでも、環境に対する意識が変わって、その先生が違う視点で環境に対して取り組むことも考えられるのかと思う。中学校では修学旅行先で田植えをし、その情報をもらいながら最後に米をもらう学校もある。それは、長野方面や新潟方面に行かれた中学校の先生が田植えをする。そういうことを元にしなが、総合的な学習の時間で環境について学習している学校もある。中学校の先生にも来ていただきたいという思いもあるので、自然観察をメインとして教材として価値があると打ち出してもらえると、先生も多く参加すると思う。

高橋座長

ありがとうございました。これまで学校の先生を対象とした研修が何度か行われていると思うが、この時期の問題はいかがですか。ここでは、7月、8月となっているが。

稲構成員

夏休みは出やすいのだが、7、8月の田んぼの状態がいいのか検討しなければならないと思う。田植えの時期がいいのであるならば早くすることも考えられる。

高橋座長

私が子ども達を外に連れていくときの考えは、行くまでの間の途中で出会うことそのものも自然観察。とにかく五感を働かせるのを大事にしている。途中の気付きも大切。そこで道草を食うのも自由。現地の目的はもちろんあるが、その周りのこと、例えば稲なら稲の状態だけでなく、稲の周りの環境。子ども達がその時に感じたこと、みんなで話し合ったことを他に応用できないかというようにとっていただければ、自然というのは春夏秋冬あるので、そこに応用を効かせて他の自然でもできると思う。

大森課長

例えば、7、8月のこの場所での状況はちょうど稲に穂が付き始めた頃か、8月であればかなり実がついている頃と思う。まさしく田んぼの風景、瞬間的に切り取った1枚の絵の場面に近い。田んぼだけの要素ではなく、川もあり、水辺もあり、樹林地もたくさんある。台湾リスの生息も観察でき、田んぼ以外の色々な要素があるので、どれを抽出してやるのが一番いいか、また先程も申しましたが、素材として幾つもある要素があるので組み立てるのも考えかと思う。

高橋座長

実は明後日、自然観察で沢山池まで案内するので、他ではまずないというのをルートを作った。昔、沢山池にはヘラブナ釣りをする深い池だったのだが、堰堤にひびが入ってしまった。我々としては池を残してほしいので、堰堤を修理してほしいと西武にお願いしたが、西武としてはお金がないということで、10数年前、安全のために水を抜いてしまった。そうしたら、雨が降るたびに上流から流れてきたもので、昔の池の3/4以上埋まってしまい、水が溜まっているところが殆どなくなってしまった。池がなくなった代わりに陸地化して、今では大きな柳まで出ている。先月、せっかくなので陸地化したところに歩けるルートを作ろうと木を切って作った。池から陸地化したところの自然の中を観察できるルートを作った。他にはないと思うので、行ったついでにそういうところも歩くことができる。田んぼを上から眺められる道も作ったので、田んぼという名目でここに行き、自然観察の時間があればそういうところも行く等、観察する対象は色々なものがあるので、四季

を通じてここは自然観察ができるのではと思う。

高橋正明構成員

今、来年度事業の田んぼの観察会について議論されていますが、これ自身は非常にいいと思います。

一方でトライアル事業をやってきて、2項で平成26年度からは単独の事業にするということは、今後継続していくということでもいいのか。それであれば、先生向けの環境教育の講座ということで全体の大きなデザインがあるといいのではないかと思います。

環境というと、自然環境や、温暖化対策とか、トライアル事業では先生方でゴミ処理場を見学されている。先生方の環境のスキルアップを考えたときに、どういうところを全体としてねらっていく予定か。そして来年度は田んぼ、自然環境、その次の年は温暖化対策というように全体を見通したかたちの方針があって、その中でどう位置付けるかとやっていくと、抜けがなく全体のスキルや先生方の活動の方向性が出てくる気がする。その辺りを議論していくことも大事と思う。

高橋座長

具体案の前に全体をとという指摘である。そこは事務局としていかがですか。

小澤課長(事務局)

3年間、トライアル事業としてやってきましたが、今の時期、先を全部見据えて決めてしまうのは難しいと考える。今後も皆さんに集まっていただき、毎回議論をいただき、環境に合ったかたちのものをやっていくのが一番いいのかと思う。今回は田んぼをテーマにし、取り上げたわけですが、これからも毎年、集まったときに「来年どうしよう」と議論していただくのがいいので、ここで全体像を作ってしまうというのは、まだ難しいかと思う。

高橋正明構成員

一定の形式ができたということなので、ランドデザイン的なところが少しあるといいと思う。そういったことをご検討いただくといいかなという気がするし、先生方もこういうことについて、勉強したい内容の提案を出していただき、トータルの中で全体を見渡せるような方向ができるのもっといいと思う。

太田構成員

学校の先生方が求めているのは、子ども達が自分の課題として捉えた学習を進めさせたいということ。自分達が「あっ!」と「調べたい、やってみたい」ことが学習につながり、その結果として環境教育、環境学習が身についていく。それには、どうしても自分達の身近

なものでないと子ども達は食いつかない。地球温暖化、みんなある程度は知っているが、「二酸化炭素が原因らしいよね。」それではその先が進まない。どうすればいいかと言うと、横須賀で起こっている、身近で起こっている問題を子ども達に投げかけて、調べていってそれを解決していく上で、環境教育が身につくのがベストである。そのデータを先生方は欲しいと思っている。

となると、課長が言われたようなタイワンリスによる食べられた被害や、あんなかわいい動物が「えっ？」と思わせるなど。大気汚染の問題もあると思う。横須賀市では、光化学スモック注意報が年に一回くらい出ている。横須賀市の環境の課題をピックアップしていただいて、それに対して学習を進めていくようなものがあると、先生方はこぞって参加してデータを拾って、学びをさせようと思う。幾つかあると思うので、それを柱にさせていただくと先生方が参加しやすいと思う。

高橋座長

ありがとうございました。奈良谷さんいかがですか。

奈良谷構成員

沢山池は子どもの頃からよく行っているが、大人になってからこの間久しぶりに行ったのだが、大分変わったと思った。確かに田んぼはあるが、座長が仰られたように田んぼに行くまでの手前に色々と要素がある。講座の主題を何か決めておいて、そこに向かって動いていけば、長いスパンで講座が開催できるのではないか。私としては今出ている案でいいと思う。

高橋座長

この場所は足の便が悪いが事務局としてはどう考えているのか。

笠原主査(事務局)

資料2の講座案は、内容は座学と見学に大きく二つに分かれている。沢山池で二つをこなすのは難しいと考えている。一つの案としては、一番近い行政施設として、西行政センターがあるので、先生はまず西行政センターに集合し、座学をそこで行った後、市のマイクロバスで現地に行って体験をし、また行政センターに戻る動きになる。その中に、学校の先生同士の話し合いの時間を設けるといような、細かい構成は今後考えて行く予定である。座長の言われた、行くまでの気付きが、現地までバスで行ってしまうと半減するところはあるが、より多くの先生に参加いただくには、その辺りを手配しないと難しいかと考えている。

高橋座長

先程、実績表が配られたと思うが、平成 25 年 8 月 23 日、小学校教諭を対象にした、ごみの講座は参加者が 6 人だった。やる以上、ちょっとこれでは少ないのではないか。この辺はどう考えているか。

笠原主査(事務局)

これは前回の会議でもご指摘いただいたところで、少なかった要因の一つは、募集をかけるタイミングが遅かった。学校の先生方の研修は教育委員会が主体となって、夏休みに設けられている。同じタイミングでこちら案内を出せば、全体の中で先生が予定を考えられたが、こちらから案内するのが遅かったので、予定を入れるのが難しかったと想定される。今回は資料にあるように、教育委員会が主体の研修と同じようなタイミングで案内をすることによって多少人数が増えると思われることと、先生の目に留まるような、授業に生かせるような周知の仕方、これなら子ども達に教えられるなというような眼に飛び込んでくるうまいチラシの作り方をするだけでも変わるかと考えている。

高橋座長

教育委員会はどこが窓口となるか。

宇佐美構成員

研修は教育研究所が担当している。昨年の研修の内容は非常にいいと思っていたので、すごく集まり過ぎて困るのではと思っていたのだが、結果として参加人数が少なくなってしまった。今、教員研修はオンラインで申し込みをしている。パソコンに一覧で出ているが、その中に外部の方々が教育委員会と連携を取るようなかたちでやりたいときに、一覧に入れることができるので、そこに乗り入れていただければ、目に留まりやすくなるのではと感じている。もちろん並行して、お話のあった目を引くようなチラシを作ることで益々集まるのではないかと思う。

鈴木構成員

最終的には、現地に子ども達を行かせ、学んでいただきたいと思う。現段階では、先生が現地に行って田んぼを見て、子ども達にどのようなかたちでメッセージ伝えるかというところが難しいと思う。何かツール、例えばオンライン上に、パワーポイントの資料を 10 ページ、20 ページ入れていただいて、それを活用してもらおう。実際目で見ないと子ども達は、先生がいくらしゃべっても頭に入らない。子どもによっても差がありますし、先生がいかにか共有し伝えるかだと思う。テレビのような動画であれば一番いいが、そうすれば子ども達も実際に行った気分になれる。それでなければ、写真や絵を入れたパワーポイントを作って共有させて授業に役立てる。前回、ごみ処理場に行ったことを子ども達にどのよ

うに教えたのか。そんな方向で検討していただきたい。

高橋座長

時間もきたので、もし他にありましたら直接事務局にご意見をお願いします。

◆その他：事務連絡

- ①生涯学習課から情報提供
- ②事務局から事務連絡

高橋座長

議題1、2が終わりましたのでその他になります。生涯学習課の高橋さんから情報提供があります。

高橋直人構成員

市民大学と全国学びと街づくりフォーラムの案内になる。市民大学については、2枚目に「再生可能エネルギーの時代がやってくる」という環境関連の講座がある。12日締め切りだが、定員に余裕があるので申込可能である。

全国学びと街づくりフォーラムについては、先程、先生方が学んだことを生かせると仰っていたが、まさに学んだことを地域づくりに生かそうというのが主旨で行われている。この分科会の中には環境に関する部分も含まれている。このフォーラムに参加したが、横須賀市でもかなり進んだ活動があり、こういうところで発表するのに適していると思った。

実は横須賀の消防局がこのフォーラムで発表しているのだが、なぜ横須賀に声がかかったかと言うと、消防局で出しているホームページを見て、素晴らしい活動をやっていると声がかかったようだ。環境についても、横須賀で行っている市民活動は素晴らしい活動が多いので、ぜひホームページで発信していただいて、全国に流していただくといいかと思う。2月1日に環境フォーラムが行われたが、環境フォーラムを行いますという宣伝はあるが、こんな活動があつて、こんな素晴らしい話があつたというところをホームページに載せるところまではいっていないと思う。生涯学習もそれが課題で、今後実績をのせていかないといけないと思っている。併せて周知、啓発の部分ができるといいと考える。フォーラムと同じ日に生涯学習センターで、まなびかん祭りというイベントがあり、どちらの会場にもそれぞれのチラシを置かせていただいた。相互に宣伝させていただきご協力ありがとうございました。

高橋座長

ありがとうございました。今、よこすか環境フォーラムのホームページの話題があつた

が、概要は掲載しているのではないか。

笠原主査(事務局)

細かい内容全てがのっているわけではないが、イベントの概要は掲載している。

高橋座長

最後に事務局からありますか。

小澤課長(事務局)

今日は年度最後の会議ということで、一言申し上げます。

一年間、環境教育・環境教育学習ネットワーク会議にご協力いただきましてありがとうございました。8月に構成員の改選がありまして、引き続きの方もいらっしゃいますし、新しい方もいらっしゃいます。会議の中で色々なご意見や情報をいただきありがとうございました。今年は平成23年度からのトライアル事業3年間の最後の年になっておりまして、よこすかECO通信は、お陰さまで皆さまのご協力をいただき年4回、スムーズに発行を進めております。前回お話いただきましたが、今まで事務局がテーマを決めてやっておりましたが、出来れば皆さん主導でECO通信を進めていければいいかなと思います。また、相互交流を生かした人材育成講座につきましては、皆さんにもご参加いただきまして、自然観察会、学校における環境学習、企業における環境の取組の紹介をさせていただきました。今年度は8月に南処理工場でごみ処理場の見学を行い、2月にエコ育の講座を行いました。現場の生の声を聞けることができ参加された方からは良かったと聞いています。これからも引き続き、現場の声を聞けるかたちで講座を進めていく予定でおります。また来年度も引き続きよろしく願いいたします。ありがとうございました。

笠原主査(事務局)

連絡事項が2点ございます。1点は外来生物に関するパンフレットを作成したので、配付します。もう1点は次回、第14回の会議の開催だが、5月から6月を予定しています。また皆さまに日程調整のご連絡させていただきますのでよろしくお願いいたします。

大森課長

今、ご紹介しましたパンフレットはまだ在庫があるので、追加のご要望があればご連絡いただきたい。4月1日からは、環境企画課の中からこの業務を行っている部分が独立し、自然環境共生課となります。

高橋座長

それでは本日の会議を終了いたします。お疲れさまでした。